

移動書記局 in 気仙支部

11月21・22日に移動書記局を開催しました。移動書記局は、普段盛岡にある本部機能を支部に移して、本部のとりくみや当



支部全体会

面の課題等を本部・支部が共有することを目的に、県内各地を巡回して年に一回行っています。専従執行委員や書記が揃って参加し、今年度は気仙支部で開催しました。本部は、2班に分かれて支部内の全ての分会の分会会議に参加し、情勢や本部のとりくみなどをお話しました。夕方からは支部全体会を約30人の参加で開催し、貴重な情報交換の場となりました。お忙しい中、

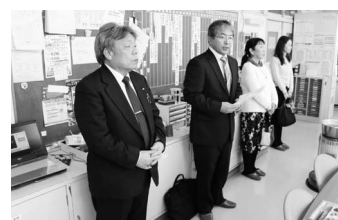
日程調整を下さった分会役員、支部役員の皆さん、ありがとうございました。

〈分会会議開催〉

21日 高田高校分会・大船渡高校分会（全日制・定時制）・大船渡東分会・気仙光陵支援分会



高田高校分会



住田高校分会

22日 住田高校分会

第56回護憲大会に参加して

11月9・10日に函館市にて開催され、会のオープニングはさんさ太鼓とはまた違う力強さを感じさせる、魅力ある巴太鼓の演奏でした。

開会総会では、沢山の方々のお話を聞き、現実の厳しさを感じると同時に、もっと危機感を持って生きなければいけないという思いが芽生えました。特に、逢坂誠二衆議院議員の「生きている時代は客観視できない。後になってから分岐点に気付く。」という言葉聞き、人生は選択の連続であり、選択は慎重にしなければならないと、心が引き締められました。

メイン企画では、室蘭工業大学大学院の清末愛砂准教授、作家・活動家の雨宮処凛さん、中野麻美弁護士の3人による熱いトークセッションが行われました。雨宮さんが見せてくれた動画は、奨学金返済等の「現代の若者が生きていて苦しいことを訴えるデモ」でした。現代の日本で普通に生きるという事がとても困難で苦しんでいるという悲痛な叫びでした。非常に衝撃的な訴えでした。また、中野弁護士の「戦争は人を道具にする。」という言葉は、絶対に戦争を起こしてはいけないという思いを更に強く

しました。

その後の岩手県参加者交流会（12人）では、初対面とは思えない程楽しい雰囲気、皆さんと親睦を深めることができました。

2日目のフィールドワークは歴史コース（トラピスチヌ修道院、縄文文化交流センター、垣ノ島遺跡、大沼公園、男爵ラウンジ、道の駅なないろ・ななえ、五稜郭公園、函館西部地区巡回）に参加しました。学校技術員である私が勤務で片付けに苦戦したドングリは、アク抜きをして食べていた事を縄文文化交流センターで学び、また垣ノ島遺跡では史跡工事が行われる中、竪穴式住居跡に入り、人々の努力の詰み重ねが今に繋がっていると感じる貴重な体験をしました。男爵ラウンジは、蒸気自動車等約500点という多くの展示物があり、全てを見ることができずまた行きたい場所のひとつとなりました。

初めて会う方ばかりで緊張していましたが、皆さんに親切にして頂き、とても有意義な護憲大会初参加となりました。

盛岡北高分会 野月平 亜希子